

発行日 2010.5.22

編集発行人 重富克彦

時は縮まっている。

1Cor7:21

# Kairos

事務所所在地 064-0912 札幌市中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516

## 聖霊の働き

### この一にして多なるもの

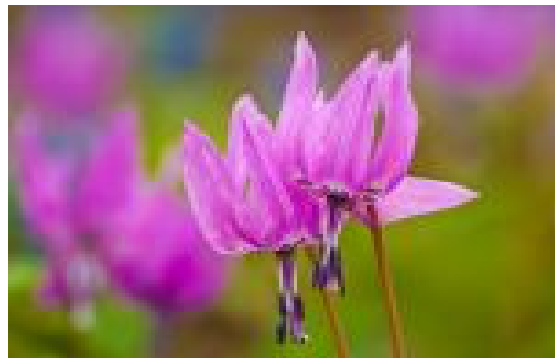
髪を切ってもらいながらの雑談の中で、わたしの仕事は牧師であることを知った男の美容師が、いくら興味深げに「僕も靈感が強いですよ」と言い「そういうのは違うすか」と聞いてきた。牧師だから宗教家、宗教家と来れば「靈感」とか「心霊現象」と連想するのだろうか。もちろんわたしには強烈な違和感がある。

霊という日本語は、どこか陰気であやしげだ。怨霊信仰と深い関わりがある。日本人の精神的土壌には怨霊信仰があることを明らかにしたのは梅原猛氏である。法隆寺は聖徳太子の怨霊を鎮めるために藤原氏が建てたという彼の主張は大きな反響を呼んだ。他に伊沢元彦氏なども同様の考えを持っている。彼は出雲大社は、大国主命の怨霊を鎮めるために、大和朝廷が建てたものと言う。誰もが認める最も有名な怨霊信仰の神社は太宰府天満宮である。この神社は菅原道真の怨霊を鎮めるために建てられた。

聖書における聖霊や霊は、怨霊信仰とは無縁である。言葉は似ていても全く違う概念なのだ。もっとすがすがしく清涼だ。聖書翻訳の際、この言

葉は避けた方がよかったのかも知れないが、肉体を超えた精神的実体を表現するのに、他の適当な言葉も見つからなかったのだろう。

創世記において霊は人に注がれた神の息(ルーアッハ)で、人はこれによって生きる者となった(創2:7)として



している。人が神を求めるのは、この霊があるからだ。しかしこの霊は神を見失い、罪に陥り、神との繋がりを見失った。そして人間は皆バラバラになった。人間は皆孤独になった。

けれども、イエス・キリストの贖いによって、霊は再び神の愛を知り、神とのつながりを見いだす。キリストの霊である聖霊が人間の霊を覚醒させて、キリストとの交わりに入らせてくれる。「聖霊によらなければ、だれも『イエス

は主である』とは言えない」(1コリ11:3)のである。

聖霊は、すべての存在に働く一つなる神の霊である。この聖霊にあって人の霊も共鳴しあい交響しあうように促される。霊とはまた愛でもある。

聖霊の働きをいただいて人と神とは深くで一つにつながり、人と人とも深くで一つにつながっている。それでいて色々に個性的である。

それはオーケストラに似ている。「賜にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めには色々ありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きには色々ありますが、すべての場合にすべてのことをなされるのは同じ神です。一人一人に霊の働

きが現れるのは、全体の益となるためです」(1コリ12:4)とパウロも言う。この場合の霊は聖霊であり、全体というのは、身の回りの人たち、教会、世界、宇宙である。

聖霊は一つで、その現れは多様。これが生きとし生けるものの秘儀である。宇宙も世界も、一にして多、多にして一。わたしもまたその一つなるものにおいて、生き、動き、存在している(重富)

# 教会の活動

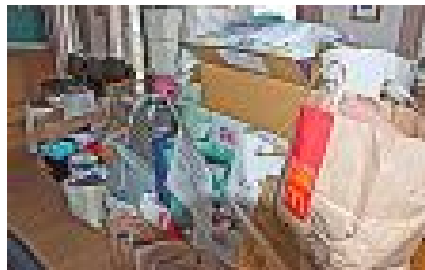
## タイ 国境 ミャンマー難民支援

今年も、軍事政権下のミャンマーを逃れてタイ国境に避難している難民を生活支援するために、衣類の発送が行なわれる。東京の聖パウロ教会の松木傑牧師の唱導で展開されている「わかちあいプロジェクト」に賛同しての行動で、札幌礼拝堂の婦人会が呼びかけ人となっている。この「わかちあいプロジェクト」は二十数年続けられている活動だ。

タイといえば亜熱帯気候だから、寒さ対策など必要ないように思えるかも知れない。けれど難民キャンプは山間部のため、夜は結構冷え込むこともあり、冬物も重宝される。贈り物だ

から、古着とはいえ、清潔なもの、当分は使用に耐えるものであることが必要だ。

集荷はスオミホールに5月23日まで。発送作業は5月27日13時より。作業に参加できる人を求めている。なお、送料も相当の費用がかかるため、一口300円の募金も行なっている。



## 祝ご結婚

田中一徳さん  
竹原貴子さん

5月22日14時30分より、札幌礼拝堂で、田中一徳さん(26)と竹原貴子さん(28)の結婚式が行なわれる。

一徳さんは、これまで教会とはなじみがなかったが、貴子さんは竹原孝・真理子夫妻の息女で、家族揃って教会員。この春めばえ幼稚園の教諭をめたく結婚退職。一徳さんの仕事は全国に支社を持つ生鮮食品の卸業務。一見交差しそうにもない二人の人生が交差し、奇しき出会いを与えられたのは、友だちの紹介によるものとか。二人ともとてもピュアな心の持ち主と見たが、それが二人を共鳴させたのかも知れない。一徳さんも、数回礼拝に参加し、またカウンセリングを受ける中で、教会にも馴染んでいる様子。教会員も違和感なく迎えられている。

これからの二人、信仰を大切に、死が二人を分かちまで、力を合わせ心を合わせて、幸せな結婚生活を営んでいって欲しいと、教会員みな、主にある家族として祈っている。

## バザー益金4ヶ所に拠出

4月29日に札幌礼拝堂で行なわれたバザーは、ときに強風を伴う雨天に見舞われ、影響が懸念されたが、むしろ、昨年よりも活況を呈する結果となった。札幌三礼拝堂、幼稚園関係など息のあった協力ができ、恵み野教会や、他施設からの出店も、彩りを添えてくれた。売上高合計は270,272円。純利益は

203,512円。

16日の役員会で、利益の配分については次のように決定した。

海外医療協力会(JOCS)、釜が崎喜望の家、恵み野教会壁面修理、ミャンマー難民支援衣類送料、各30,000円。残83,512円は教会への献金とする。ご協力に感謝。

## めばえ幼稚園

### さあでかけよう

めばえ幼稚園のカリキュラムには月々のテーマがある。5月のテーマは「でかけよう～先生とともに～」、6月のテーマは「見つけよう」となっている。

ようやく北海道にも遅い春が訪れた。北国の春は、春も初夏も一緒だ。一週間前までは寒かったのに、日差

しの良い日は汗ばむぐらい。そうなる、遠くにお出かけしたくなる。

さあ「出かけよう」。お出かけは大冒険。危険が一杯。お水を持って行くこと。迷子にならないこと。車に気をつけること。注意しなければいけないことがいっぱいだ。

お出かけする子どもたちは、羊飼いに連れられた小羊たちみたいだ。先生は羊飼い。この子羊のような子どもたちが、一人でも怪我をしたり、迷子



になつたりしないように、心を配ってかれている先生たちは、イエスさまに似ている。イエスさまの目から見れば、わたしたち一人一人が大切。

## 美しく死ぬこと

主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

詩編23:1

佐賀鍋島藩の葉隠れの精神は「武士道とは死ぬことと見つけたり」という一言にあるという。武士の生き方のすべては、いかによく死ぬかにかかっているということである。死から生を受け取り直すのだ。恥ずかしい生き方をするくらいなら、自ら死を選ぶことも求められる。それも縊死とか服毒死であってはならない。武士らしい死に方は切腹である。「立派に死んだ」と言われることは、武士の誉れとなる。

このような精神は、ついひと昔前の軍人にも尊ばれ「生きて虜囚の辱めを受けず」という戦陣訓として、兵士を律した。これにより南方の戦線で日本刀や銃で自決した者も少なくなかったという。

文脈は全く違うが、最近時々、ターミナルケアの分野から、死に方と生き方を関連づけて語られる言葉を聞くことがある。「人は生きてきたように死ぬ」という言葉だ。どこか武士道に似ていないだろうか。むろん自決を勧めたりはしない。ただ、一種の死の美学がそこにあるように感じられるのだ。

あるセミナーに出たとき講師がこの言葉を使ったので、「では死に際が見苦しかったら、その人はよく生きたことにならないのか」と、少し意地悪な質問をした。わたしの脳裏には、作家の椎名麟三が洗礼を受けたとき「これでジタバタして死ぬ」と言ったという有名なエピソードがあった。講師は神学者だったので、すぐにそれに気付いたのだろう。福音的な視点からは、この命題は、更に吟味してみる必要があると答えてくれた。

「ぴんぴんころり」という願望も、心の底には美しく死にたいという思いを秘めてのことではないかと思う。認知

症になって自分のうんちをいじるようになって、なかなか死ねないというのは、悲惨であり、醜悪でもある。人間はすべてがキリストを宿しているから、自分のうんちをいじりまわし、あちこちにくっつけて徘徊している人がいても、それを悲惨だとか、醜悪だと思っはいけないと、自戒する心はあるが、自分がそうなったことを想像すると、やはり耐え難く、絶対に拒否したいという思いに駆られる。そうなるくらいなら、何でもいから命を絶っていただきたいという願望は不信仰で傲慢なことなのだろうか。

そうだと思う。だが受け入れがた



い。だから、仕事とはいえ、それを受け入れて心を尽くして介護している人には一も二もなく頭が下がる。

死に際を美しくしたいというのは、わたしたち日本人の心になりに根強く息づいているもののように思える。死を散る花に重ねる心情は武士道が確立されるよりも早くからあった。西行の「願わくは花の下にて春死なむ」という歌も、死と花を重ね合わせる死の美学だ。花ははかなく美しく散る。そのように命を終えたいというのが、わたしたち日本人の死の美学の究極なのかも知れない。

けれど見方を変えれば、これは死に際してまで見栄を張ろうとすることもでもあるのではないか。

信仰者にも、死に際しての見栄は

ないだろうか。芥川龍之介の「殉教者にも虚栄があった」という言葉にも、人間心理としては否定できない一面がある。むろんそれで殉教者の真実が損なわれるわけではない。

思い出しては今も心痛むものがある。妻が不治の病となって、近づく死を待つ残酷な日々、わたしの中には秘かに、しっかりと復活への希望を持って、クリスチャンらしく死を迎えて欲しいという願望があった。心が痛むのは、わたしは無意識のうちに、自分の願いを押しつけて、そのため彼女に思いっきり泣き叫ぶことをさせなかったのではないかということである。

妻は確かに取り乱すことはなかったし、泣き叫ぶこともなく従容と死を受け入れた。涙が一筋二筋流れているのをとまどいながら、わたしがじっと見つめていると、それに気付いた彼女は「勝手に出てくるのだから仕方がないわね」とおどけて見せた。

死を従容と受け入れ、希望のうちに雄々しく死んで行きたい。それも、出来るだけ最後まで明瞭な意識を持って。それは美学だろうか。見栄だろうか。仮に美学があり、見栄があったとしても、自分の死を受容するにあたっては、それも許されることだと思う。死は一世一代の大仕事なのだ。大仕事には美もあれば見栄もある。ただの見栄ではない。それは人としての尊厳なのだ。

しかし確かに椎名麟三が言うように、ジタバタして死んでも大丈夫である。キリストの中では、すべてのことは許されている。

死を前にして恐れおののき、血の汗を流して祈り苦しまれたのは、他ならぬイエス・キリストだった。(重富)

## <うるわしき五月>

原初、光は闇の中から創造された。永遠のいのちは朽ちるべき死の体から呼び起される。春は枯れ果てた冬の中から蘇る。北海道の風土に似たヨーロッパでは、春の最も美しい月は五月である。ゲーテは「なんと晴れやかな 自然のひかり / 日は輝き、野は笑う / どの枝も花を噴き / 茂みからは数知れぬ鳥の歌声 / 胸に湧く歓喜」(小塩節訳)と五月を謳歌し、ベートーヴェンが歌曲集『八つの歌』の中でこのゲーテの「五月の歌」に曲をつけ、楽の調べにのせた。詩人ならずとも、人はみな、生命力にあふれた「うるわしき五月」を喜び迎える。「五月」をあらわす英語のMay、ドイツ語のMaiマイ、フ

ランス語のmaiメの語源は、いずれも、古代ローマの、植物の生長・動物の繁殖を司る豊饒の女神Maiaマイアに由来する。春の盛期である五月には、播種された穀物・野菜の芽が伸び育ち、放牧された家畜が繁殖する。農耕・牧畜社会の農事暦にとって五月は重要な月である。農業はキリスト教以前の土俗信仰と深く関わり、豊作祈願の農耕儀礼をとまなう。そして古来の農耕暦は教会暦に重ね合わされた。例えば、ドイツやオーストリアのある地方では、「耕地めぐりFlurumgang」というゲルマンの異教時代の豊作祈願の行事がキリスト昇天祭(復活祭後の四十日目)の時季に行われる。「耕地めぐり」は田畑の境界線を確認し、同時に耕地を落雷や雹や害虫から護り、豊作を祈願する農

耕儀礼である。昇天祭の日、聖職者を先頭に、楽隊や合唱隊を伴った農民の一団が牛鈴(カウベル)を鳴らし、歌をうたいながら耕地を回る。牛鈴や歌の響きは魔を祓うと同時に農作物の芽を目覚めさせ、その生長を促す。カトリック教会は、豊饒の女神マイアの名に因む五月を愛称として「マリアの月」と呼び、聖母の加護のもとに穀物の豊穰と家畜・家禽の繁殖がもたらされる月とした。こうなると、聖母は大地母神のイメージと重な

れている。百花繚乱の五月は、古代ローマの花の女神フローラFloraの月でもある。日本では「母の日」の贈り物の花はカーネーションとされているが、フランスではその花言葉が「気まぐれ」であるので、「母の日」とは結びつかないという。五月を代表する花は「聖母の花」と呼ばれる鈴蘭である。五月のひんやりとした森の木陰で数日間だけ花開き、清楚で、繊細で、香り爽やかな鈴蘭は「聖母の花」と呼ばれるにふさわしい。英語のMay

は頭文字を大文字で書けば「五月」であるが、小文字のmayは「サンザシ」の木とその花を意味する。サンザシは「五月柱(メイ・ポール)」とよばれる「五月祭」の代表的な樹木である。ヨーロッパの

いくつかの地方では、五月一日に農夫たちが家畜小屋の戸にサンザシを取り付け、また雌牛の角にも付ける。そうすれば雌牛が乳をたくさん出すという。家族と家畜を病気や悪霊から護るために、春の生命力の象徴である緑の若木を家の前に立てて、その先端を緑の葉環(克蘭ツ)で飾る風習はヨーロッパで広く見られる。飾りをつけた白樺や樅の高い「五月柱」を広場に立てて、その周りで歌い踊る「五月祭」は農村の楽しい年中行事の一つである。昔のイギリスでは村一番の美人が「May queen」に選ばれて、五月祭の主役を務めた。「五月の女王」は日本では「メークイン」とカタカナでつづられてジャガイモの品種の名となっている。

## ヨーロッパの民衆文化とキリスト教の中の民間信仰(9)

栗原 成郎



西洋サンザシ

る。「聖母の月」である五月に「母の日」が設定されたのは中世のカトリック社会に起源をもつ。「母の日」は、アメリカではフィラデルフィアに住んでいたアンナ・ジャーヴィスAnna Jarvisという女性の思いつきによって比較的新しく1907年に始められ、五月の第二日曜日(彼女の母の命日に近い)であるが、フランスやスウェーデンでは五月の最終日曜日に、スペインでは五月の第一日曜日に定めら

日本福音ルーテル札幌教会 牧師 重富克彦 岡田 薫  
札幌教会 URL <http://www.jelc.or.jp/sapporo>  
札幌礼拝堂 064-0912 中央区南12条西12丁目2-27 011-561-9516  
札幌北礼拝堂 001-0031 北区北31条西4丁目1-5 011-726-3243  
新札幌礼拝堂 004-0053 厚別区厚別中央3条6-1-5 011-891-5246

